

# 浜松市「まちなかオープンテラス」の取り組み

浜松市 産業部 産業振興課

## 1 はじめに

新型コロナウイルス感染症拡大の影響は、当市の中心市街地においても例外ではなく、飲食店・物販店を中心に大きなダメージを与えており、感染拡大を防止しつつ落ち込んだ経済の回復を図らなければならない。

そのため本市では、店舗に対し感染拡大防止に資する工事費等の助成や安全・安心な飲食店を認証する制度など様々な支援を行っている。本企画「まちなかオープンテラス」もその一つである。

## 2 取組内容

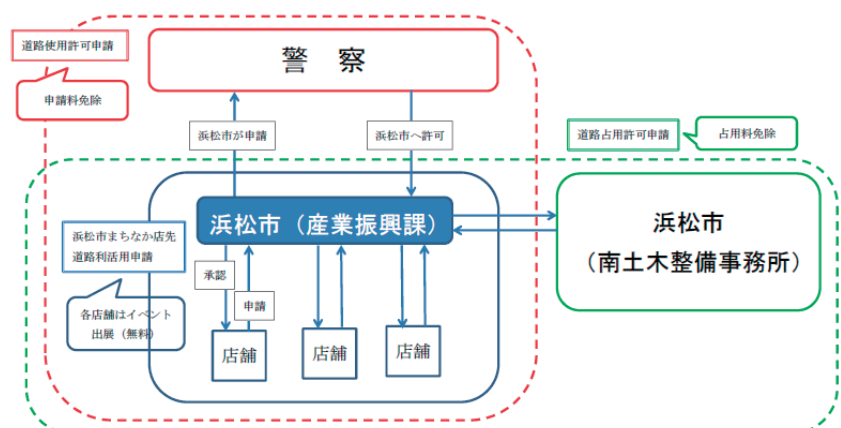
「まちなかオープンテラス」は、店内の3密回避を第一の目的としている。3密回避の一方策として、店内の席数を間引く代わりに、店先の道路空間にテラス席を設けることを考えた。また、テラス席を設ければ、お客様は青空の下、気持ち良く食べたり飲んだりでき、新しい生活様式への対応となる。さらに、テラス席で飲食することが話題になれば、中心市街地の来街者の回復にも繋がると考えた。

何よりも本企画は、スピード感を持って取り組んだ。5月下旬にプロジェクトチームを立ち上げ、6月19日にはスタートするという異例のスピードだった。その背景は、もちろん緊急に迫られたコロナ対策であり、一刻でも早く対策を行い、事業者の力になりたい一心であった。

さらに、本市では平成17年度に「浜松市まちなか公共空間利活用に関する要綱」を制定し、道路空間等の利活用を始め、平成26年度より「リノベーションまちづくり」に取り組み、官民の遊休空間を使ってまちづくりを進めており、関係部署に公共空間利活用に対する理解があったことも大きい。

本企画を実施するに当たっては、最初に関係部署からなる庁内横断的なプロジェクトチームを結成することとした。プロジェクトチームにはまちなかの公共空間の利活用を担当する産業振興課をはじめ、道路管理を担当する部署が参加したため、専門的な知識の下、スピーディーに進めることができた。その中で警察協議や制度設計を行い、具体的なスキームや実際の道路使用幅などを決めていった。

浜松市まちなか店先道路空間利活用 スキーム図



### 3 エリア及び対象道路の選定

プロジェクトチームの中で、どのエリアのどの道路を利活用するのか、具体的に検討していった。検討の中で、歩道幅員の十分な確保は必要であり、少なくとも2m以上は確保しなければならないとの結論に至った。それをPTのメンバーで実地検分し、具体的に店先でラインを引きながら決めていった。道路管理者と一緒に立会い、道路使用範囲を決めることが出来たのは非常に大きい。



実際にラインを引いてみると様々な課題があることが分かった。例えば、点字ブロック近くや隅切り部分のラインの引き方など、現地で問題の有無を確認し、修正を繰り返した。



### 4 32 店舗の参加へ

参加店舗を集めるに当たっては、HPに掲載するだけでなく、直接店舗にフライヤーを配布、又は、商店会や自治会等の組織に配布するなどして、参加店舗を募った。ある程度の参加店舗があれば、さらに参加希望店舗が増えるであろうと考えた。実際に当初は23店舗でスタートしたが、7月27日現在、32店舗の参加を得ている。





## 5 アンケートの結果

本企画は社会実験であるため効果を検証する必要があるため、7月に各店舗にアンケート調査を行った。あいにく今年の6、7月は梅雨が長引き、なかなかオープンテラスの効果を発揮出来なかった。アンケートもそれを反映し、「外でテラス席を設けることができなかった」とする意見が多い。

しかし、「まちなかの活性化に向けてきっかけとなる」、「良い取り組みである」、「長く続けて欲しい」などの声があがっており、企画の趣旨としては良かったと考えている。

また、地元だけでなく、全国の自治体からも注目を浴び、多くの問合せをいただいた。



## 6 終わりに

オープンテラスを行ってみると、お店の情報が目に入りやすい、まちの雰囲気が開放的になるなど、3密回避以外にも様々な効果が見られた。オープンテラスが連続し、統一的な景観を見せることができたならば、さらに大きな効果を発揮できたであろう。

本市では、当初8月31日までの実施期間としていたが、アンケートの結果や今後の効果を鑑み、さらに期間の延長を検討していく。

今後、道路空間をいかに利活用してまちづくりに繋げていくか、大いにヒントとなる社会実験であったと考えている。